

2019年度
事業報告

目次

I	現況	1
	1. 事業.....	1
	2. 役員.....	1
	3. 評議員.....	2
	4. 事務局.....	2
	5. 事業資金.....	2
II	理事会・評議員会	3
	1. 理事会.....	3
	2. 評議員会.....	3
III	事業実施の概要	4
	1. 調査事業.....	4
	2. 保護事業.....	4
	3. 普及事業.....	10
	4. ネットワーク事業.....	16
	5. 団体交流事業.....	17
	6. その他.....	18
IV	登記事項、届出・報告・申請事項、登録事項	19
別表	東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクト助成金交付一覧表.....	20
参考	アドバイザー名簿、顧問名簿及び観光資源専門委員名簿.....	21

I 現況

1. 事業

定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- (1) 国民的財産として後世に継承するに足る観光資源の認定
- (2) 前号により認定された観光資源（以下「保護対象」という。）の取得及び管理運営
- (3) 観光資源に関する保護活動への支援
- (4) 観光資源に関する保護思想及び知識の普及向上
- (5) 観光資源に関する学術調査研究並びに情報の収集及び提供
- (6) 政府及び関係機関への観光資源の保護に関する建議又は陳情
- (7) この法人の健全な発展を図るために必要な関連事業の経営
- (8) その他目的を達成するために必要な事業

2. 役員

(1) 2020年3月31日現在の役員

会長	梅崎 壽	東京地下鉄（株）顧問
代表理事		
副会長	川村 恒明	（公財）文化財建造物保存技術協会顧問
代表理事		
理事長	大庭 靖雄	常勤
業務執行理事		
副理事長	木部 義人	（公財）日本ナショナルトラスト関西支部長
業務執行理事		
理事	小川 孝行	東京地下鉄（株）取締役
理事	苅谷 勇雅	元・文化庁文化財鑑査官
理事	久保 成人	（公社）日本観光振興協会理事長
理事	栗田 亘	コラムニスト（元・朝日新聞社論説顧問）
理事	阪本 未来子	東日本旅客鉄道（株）常務執行役員
理事	柴崎 信三	元・日本経済新聞社論説委員
理事	柴田 耕介	（株）コバック顧問
理事	志村 格	（一社）日本旅行業協会理事長
理事	杉浦 雅也	東海旅客鉄道（株）執行役員営業本部長
理事	鈴木 雅和	筑波大学芸術系名誉教授
理事	高野 光司	（公財）日本交通公社理事
理事	武市 信彦	西日本旅客鉄道（株）執行役員東京本部副本部長
理事	福本 啓二	（一社）日本民営鉄道協会理事長
理事	廻 洋子	敬愛大学特任教授
理事	森 まゆみ	作家

監事	今村 正	税理士
監事	山科 清一	(公財)鉄道弘済会専務理事

3. 評議員

(1) 平成 31 年 3 月 31 日現在の評議員

評議員	大西 孝夫	元・(一財)休暇村協会理事長
評議員	黒野 匡彦	(一財)運輸総合研究所顧問
評議員	清野 智	(独)国際観光振興機構理事長
評議員	曾我 健	元・(公財)NHK交響楽団理事長
評議員	田川 博己	(株)JTB代表取締役会長
評議員	堤 哲	元・毎日新聞編集委員
評議員	伏屋 和彦	元・会計検査院長 (元・国税庁長官)
評議員	森地 茂	政策研究大学院大学政策研究センター所長

4. 事務局

2020 年 3 月 31 日現在の職員 5 名

5. 事業資金

本財団の事業資金は、事業賛助団体からの寄付金並びに個人および団体からの会費等による。

Ⅱ 理事会・評議員会

1. 理事会

(1) 第1回理事会 2019年5月29日

開催場所 海事センタービル7階会議室
決議事項 平成30年度事業報告及び決算報告、定時評議員会の招集について
報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行の状況の報告、2019年度第2回理事会の開催
出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席14名、欠席5名。監事出席2名。

(2) 第2回理事会 2019年6月25日

開催方法 決議の省略の方法
決議事項 業務執行理事（理事長及び副理事長）選定、顧問の選任について
出席等 提案書に対し、理事19名全員の書面による同意の意思表示及び監事2名全員からの書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(3) 第3回理事会 2020年3月23日

開催方法 決議の省略の方法
決議事項 2020年度事業計画及び収支予算、2020年度補助金等の交付申請、特定資産の取崩、定時評議員会の招集について
報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告、2020年度第1回理事会の開催について
出席等 提案書に対し、理事19名全員の書面による同意の意思表示及び監事2名全員からの書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

2. 評議員会

(1) 定時評議員会 2019年6月25日

開催場所 海事センタービル4階会議室
決議事項 平成30年度事業報告及び決算報告、定款の変更、理事の選任について
報告事項 2019年度事業計画及び収支予算、平成30年度第2回、3回及び2019年度第1回理事会の決議事項
出席等 決議に必要な出席評議員の数5名、出席6名、欠席2名。同席理事2名、同席監事2名。

Ⅲ 事業実施の概要

1. 調査事業

(1) 受託調査

①「文化財保存活用地域計画策定業務」

石川県輪島市から「文化財保存活用地域計画策定業務」を受託した。(4月25日に契約を締結。受託金額506万円/税込)。9月12日に第1回輪島市文化財保存活用地域計画作成等協議会が開催され、JNTが事務局支援を行った。協議会では、東京大学名誉教授の西村幸夫氏が会長に選出され、本年度内に実施する調査計画が承認された。本件は、3年間継続して進めることが計画されている。また、12月9日に第2回協議会が開催され、文化財に対する市民の意識調査、文化財継承に関するヒアリング調査の結果報告および、文化財リストの整理案、関連文化財群の設定案について協議された。3月21日に開催された第3回協議会では、各調査の進捗報告と、文化財の保存活用に関する課題および次年度の実施スケジュール等について協議された。同日住民向けの報告会が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため中止となった。

* 輪島市委託事業

2. 保護事業

(1) 文化財取得保護計画に基づく保護事業

①白川郷合掌造民家の修復と管理運営 (岐阜県白川村)

8月20日に白川村荻町集落において守る会会長及び荻町区長、白川ボックス代表、役場担当者等と白川郷合掌文化館・旧寺口家管理運営委員会を開催し、前年度の事業報告と本年度の事業計画について審議した。10月14日～15日に行われた白川村荻町祭礼(どぶろく祭り)に職員が参加する予定であったが、台風の影響で参加を中止した。

《管理運営委員会》和田正人・白川郷荻町集落の自然環境を守る会会長、大田忠広・JNT 白川ボックス代表、和田茂・荻町区長、川田裕・白川村老人クラブ長生会会長、宮丸和之・白川村教育委員会教育長、安藤邦廣・筑波大学名誉教授他

* 旧松井家 貸館1件

②動態保存車両(トラストトレイン)の運行と修繕 (静岡県大井川鐵道)

4月～9月にかけて全5回のトラストトレインの運行を無事に終了した。6月1日の運行日には、シティグループの「グローバル・コミュニティー・デー」の一環として、同グループの社員等28名がボランティア活動に参加した。8月24日には、次世代を担う子供たちが興味を持ってトラストトレインと触れ合う機会を作るため親子ボランティアを実施し、子供11名を含む一般参加者23名、ボランティアスタッフ9名の参加があった。当日は、車内アナウンス体験やSL磨きなどを行い、好評であった。蒸気機関車C12の動態復元については、引き続き大井川鐵道株式会社と調整を行っている。12月8日に大井川鐵道株式会社にご協力いただき、ボランティアでトラストトレイン客車の清掃や外板研磨作業、安全講習を实

施した。2月5日に大井川鐵道株式会社と運営会議を開催し、2019年度の活動報告と2020年度の活動計画等について協議を行った。

<運行日>4月13日(7名)、6月1日(37名)、7月6日(8名)、8月24日(32名)、
9月28日(8名)*8月24日は親子ボランティア

③名勝旧大乘院庭園保存整備と管理事業 (奈良県奈良市)

6月21日に保護管理委員会を開催し、昨年度の事業報告および本年度計画についての審議を行った。また、同日に管理協議会を開催し、管理や保存修理事業の報告および計画について協議を行った。中島反橋の架け替えなど大規模な整備事業は終了して魅力が高まっていること、前年度の入園料の値上げの影響も少なく増収が得られていることを受け、今後はさらに文化財を観光資源として活用するモデルとして、積極的な活用を進めていく。

9月13日に実施した恒例の「観月の夕べ」では、前年初めて試みたライトアップを本年はパナソニックの協力を得てLED照明機材を無償で借り受け、実施したところ大変好評であった。また、前年に引き続き「なら燈火会」「珠光茶会」などの公的な行事の受け入れや「関西文化の日」のイベントへの参画など積極的に入園者増加に向けて取り組んだ。そのほか、JR西日本、奈良ホテルとの連携企画として、奈良ホテルのランチと名勝旧大乘院庭園への入園をパッケージにした商品(「駅プラン」)が販売された(発売期間10月1日~2月26日)。さらに、西日本旅客鉄道(株)の広報誌や読売新聞をはじめとするさまざまなメディアに取り上げていただき、広報の強化を図った。

《保護管理委員会》尼崎博正・京都造形芸術大学教授(JNT観光資源専門委員)、松村恵司・奈良文化財研究所所長 他

*入園者数 12,662名(公開日数305日)、ロケーション利用等23件

*奈良県及び奈良市補助事業

④東京都指定名勝旧安田楠雄邸庭園の修理・修繕と管理活用事業 (東京都文京区)

4月24日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告を行った。本年度の事業計画については、主に構造補強等工事計画と保存活用計画の更新について審議し、承認が得られた。旧安田邸を一時休館し前年9月から進めてきた構造補強等工事について、10月9日に構造補強検討会を開催し、工事の最終報告を行った。10月30日には東京都、文京区立ち合いのもと完了検査を行い、構造補強等工事を完了した(構造補強等工事に伴う庭園工事は11月15日完了)。ハード面の整備と合わせて、地震発生時の対応マニュアルの整備などのソフト面での対策も行い、10月19日にはボランティア説明会を開催した。工事後、11月9日の再公開に先駆けて、11月6日に寄付者および関係者等のご参加を得て落成記念式典を行った。また、寄付者へのお礼イベントとして11月10日に落語会を開催したほか、再公開の特別企画として11月10日~12日の特別公開(通常は非公開日)を行った。さらに11月13日および16日の東京文化財ウィークには一般参加者向けに工事報告会を開催した。当年度でちょうど旧安田邸が100周年を迎え、11月9日の再公開日には来館者にオリジナル記念バッジを配布し大変好評であった。

再公開にあたっては東京地下鉄株式会社をはじめとする企業等にご協力いただいて情報発信に努め、東京メトロ「新御茶ノ水駅」「根津駅」「千駄木駅」「湯島駅」でのポスター掲出

のほか、東京観光財団ウェブサイト「GO TOKYO」（デジタルサイネージでの広告含む）、東京の観光ウェブサイト「レッツエンジョイ東京」、JR 東海道・山陽新幹線グリーン車搭載誌「ひととき」、東京地下鉄(株)「Metro Walker」などに掲載された。

「旧安田楠雄邸耐震補強募金計画書」に基づき 2017 年 7 月から開始した耐震募金は、目標である 1 千万円をほぼ達成し、募金を終了した。募金金額 個人 2,577,669 円、法人 6,833,334 円、合計 9,411,003 円（2019 年 3 月末終了）。

工事終了後は通常の維持管理体制に戻し、庭園では定期剪定の実施、管理活用においては月 1 回の活用ワーキング会議を開催した。また特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会（通称：たてももの応援団）や専門家と協議を図りながら五節句行事等の各種イベントの実施や撮影等の貸館対応などによる活用に努めた。前述の東京文化財ウィーク（事務局：東京都教育委員会）のほか、東京の日本庭園おもてなし協議会（事務局：東京都建設局）による東京いい庭キャンペーンへの参画など自治体による文化的活動にも協力した。11 月 22 日には東京農業大学の協力のもと、学生約 30 名が参加して主庭枯流れの清掃を行った。このように、様々な主体と連携し、管理活用を行った。

《保護管理委員会》井手久登・東京大学名誉教授（JNT 観光資源専門委員）、樋渡達也・前文化財指定庭園保護協議会会長、河東義之・小山工業高等専門学校名誉教授、内田青蔵・神奈川大学教授、服部勉・東京農業大学教授 他

* 一般公開 1,924 名（公開日数 42 日）、 貸館・団体見学・映像・写真撮影等 12 件

⑤京都市指定文化財駒井家住宅の修復と管理活用事業（京都府京都市）

7 月 22 日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告と本年度の事業計画について審議を行った。三村浩史（京都大学名誉教授）委員長が退任され、山形政昭（大阪芸術大学教授）委員が新しい委員長に選任された。また、前年度取り組んだ保存活用計画の策定が承認された。

保存活用計画に基づき、次年度以降に実施する台所の復元と排水・庭園工事に関して調査・計画を進めるとともに、ボランティアと意見交換を行った。庭園の管理については、京都造形芸術大学尼崎博正教授の指導のもと定期剪定と同大学の庭園実習の受け入れを継続した。公開・活用等については、3 月 29 日～4 月 7 日の期間、季節にあわせた春の連続公開を行い、510 名が来館した。4 月 3 日には、公益社団法人京都観光協会と共催で駒井家住宅・旧三井下鴨別邸の共同見学会を開催し 20 名が参加した。また 9 月 1～7 日に日本初開催となる国際博物館会議（ICOM）京都大会が開催され、関連企画に参加した。その一つとして、9 月 8 日に、秋の特別公開とあわせた「北白川を代表する住宅建築の特別公開」を開催した。駒井家の隣に並ぶ喜多源逸邸・小林家と連携して見学会を開催したもので、開館前から約 50 人が列をなし、わずか 3 時間の公開時間に 320 名が来館した。さらに、9 月 5 日は ICOM DEMHIST（歴史的建造物を研究する委員会）のツアー、9 月 6 日は ICOM エクスカーションツアーの受け入れを行った。駒井家の管理においては、日頃の防火防災等の活動が評価され、駒井家住宅が京都市左京消防署長表彰を受けた。3 月 8 日に予定されていた表彰式は、新型コロナウイルスの影響で中止となった。

《保護管理委員会》 山形政昭・大阪芸術大学教授、 尼崎博正・京都造形芸術大学教授（JNT 観光資源専門委員）、松井正文・京都大学名誉教授、三村浩史・京都大学名誉教授（JNT 観光資源専門委員） 他

* 京都市補助事業

* 一般公開 900 名（公開日数 57 日）、 貸館・団体見学・映像・写真撮影等 33 件

⑥旧モーガン邸の管理事業（神奈川県藤沢市）

適切な安全管理及び地域活性化の観点から、2011 年度から実施している JNT と特定非営利活動法人旧モーガン邸を守る会による活用試行を今年度も継続的に実施した。守る会との管理委託契約に基づき、月 1 回の庭園公開とイベント、また月 1 回の清掃ボランティア活動を継続的に今年度も順調に推移した。一般社団法人日本建設業連合会の社会貢献活動の一環として行っている清掃ボランティア活動の受け入れは、台風および新型コロナウイルスの影響を受け中止となった。9 月 5 日に発生した台風 15 号の影響で旧モーガン邸東側を中心に倒木等の被害があり、伐採等の対応を行った。加えて、10 月 12 日夜から 13 日未明にかけて猛威を振るった台風 19 号により、温室として建てられた小屋の倒壊、主屋覆い屋の防護ネットの破損などの被害があった。現在、修理に向けて準備を進めており、費用については保険金で対応する。旧モーガン邸の今後のあり方については、譲渡先候補である（公社）横浜歴史資産調査会との間で譲渡契約の締結に向けて調整を行っている。

《保護管理委員会》井手久登・東京大学名誉教授（JNT 観光資源専門委員）、吉田鋼市・横浜国立大学名誉教授、亀山章・東京農工大学名誉教授、大野敏・横浜国立大学教授、水沼淑子・関東学院大学教授、菅孝能・山手総合計画研究所代表取締役、他

⑦文化財取得保護計画募金計画の継続

文化財取得保護計画における募金計画の成果を受けて、各保護資産においてさらに利活用を目指した修復を実施するために、経済界および関係諸団体、会員などに対し広く呼びかけを行い、募金活動を推進した。

（2）その他の保護事業

①天心遺跡記念公園及び天心墓地の保護管理（茨城県北茨城市）

天心遺跡記念公園においては、定期的な除草、清掃作業を行った。また、天心墓地では、除草作業と月 2 回の点検及び供花を行った。10 月 12 日夜から 13 日未明にかけて猛威を振るった台風 19 号の影響で、天心遺跡記念公園ではフェンスの破損や倒木などが発生した。来園者の安全を確保するため一時的に閉園・立入禁止としたが、倒木の撤去等を行い 11 月 29 日から再公開した。なお、天心墓地は大きな被害がなかったため、通常通り一般公開を行った。その他、周辺の実心関連施設と連携を図りながら公開事業を行い、10 月 5 日～10 月 26 日に開催された「観月会 2019」を後援した。3 月 24 日に予定していた保護管理委員会は、新型コロナウイルスの影響を受け書面で開催し、本年度の事業報告と次年度の事業計画について承認を受けた。

《保護管理委員会》豊田稔・岡倉天心偉績顕彰会会長、小泉晋弥・茨城大学名誉教授、関弘和・茨城県立天心記念五浦美術館館長 他
* 北茨城市補助事業

②ED70 形 1 号交流電気機関車の保護管理 (滋賀県長浜市)

西日本旅客鉄道(株)寄贈の ED70 形 1 号交流電気機関車について長浜市民やボランティアによる保護管理を行い、広く一般に公開している。

③巻機山の景観保全 (新潟県南魚沼市)

景観保全活動として、東京農業大学と連携し 8 月 24 日～27 日の期間でボランティアによる池塘復元(竜王一ノ池)、植生復元(ニセ巻機南西斜面)、既存木道の補修(竜王平)などを実施した(参加者総計 13 名)。また、2021 年度新潟県事業の確認及び荷揚げ(7 月 27 日～28 日)、木道追加補修(10 月 10 日)等を行った。

④東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクトの実施

延長申請が出されていた「気仙沼風待ち地区の国登録有形文化財群 千田家住宅主屋」が 3 月に竣工し、第五次支援対象事業はすべて完了した。支援対象見学会として 10 月 26～27 日に「森まゆみさんと行く—ふくしま復興応援と交流の旅」(旅行企画・実施：一般社団法人日本農協観光協会)を企画したが、最小催行人員に満たなかったため開催を延期した。本件支援プロジェクトの対象施設等で行われるイベントなどをメールマガジンで発信し、活動を支援したほか、今後の支援対象の見学会や報告書の作成の準備を進めた。

(3) ヘリテージセンターの管理運営

①葛城の道歴史文化館の管理運営 (奈良県御所市)

館内には葛城の道散策マップや街道の神社・仏閣に関する資料、伝統行事の写真などが展示されており、葛城古道を散策するための情報拠点として利用された。また、館内には休憩所とともに、集会所を備え、住民と来訪者が交流し、歴史を活かしたまちづくりや歴史環境の保全について考える場としても活用された。

(入館者数 9,036 名)

②飛騨の匠文化館の管理運営 (岐阜県飛騨市)

海外との交流が活発である飛騨の匠文化館では、4 月から 8 月にかけて、イギリス・ノルウェー・アメリカ・台湾から学生を迎え、伝統工芸や林業施策を学ぶプログラムが実施された。また、国内より大阪工業技術専門学校の学生 37 名が飛騨地方での学外実習ツアーの一環として訪れ、大工技能について学んだ。さらに 8 月 13 日には飛騨市ふるさとこども大使任命プロジェクトとして小学生 40 名が来館し、飛騨の匠の魅力を学んだ。このように、展示コーナーや体験コーナー等を活用しながら、飛騨の匠の技を体感できる場、歴史を活かしたまちづくりの拠点としての役割を発揮した。新型コロナウイルスの影響により、年末から国内外の予約キャンセルが多発した。

(入館者数 5,673 名)

③白川郷合掌文化館（旧松井家）の管理運営（岐阜県白川村）

管理運営については、白川村在住の JNT 会員からなる白川ボックスと管理業務委託契約を締結しており、日常点検や清掃、軽微な修理、屋根のメンテナンス等を実施した。6月29日には白川ボックス総会を開催し、あわせて清掃作業を実施して8月1日～8月31日に夏季開館を行った。

（入館者数約 800 名）*8月の5日間の入館者数

④名勝大乘院庭園文化館の管理運営（奈良県奈良市）

フルートコンサートや庭園講座等を実施したほか、庭園との共催で仲秋の名月に合わせた「観月の夕べ」を9月13日に実施し、お茶席を設け好評を得た。また、恒例となった「なら燈花会」に併せた演奏会(8月10、11日)や珠光茶会(2月8日、9日)など、奈良での大きな観光イベントの会場にも利用された。また、展示スペースにおいて「万葉と華邨のかな書」、入江泰吉出張展示「大和の道」、奈良市美術館ミニ出張展示「なら観光記展」などを開催し、好評を得た。3月26日に予定していた文化講演会「日本庭園の歴史と大乘院庭園」は、新型コロナウイルスの影響を受け、延期となった。

（入館者数 44,119 名）

⑤長浜鉄道文化館の管理運営（滋賀県長浜市）

長浜市および(公社)長浜観光協会により、年間を通じて長浜の鉄道史を紹介するなど、歴史を活かしたまちづくりの拠点としての役割を發揮した。企画展として、70年におよぶ鉄道模型の歴史や文化をたどる「天賞堂鉄道模型展」(7月6日～9月30日)や「C56が牽くSL北びわこ号～服部ひろみ写真展～」(10月5日～12月28日)が開催された。1月からは「鉄道写真家 真島満秀の世界展」が開催され、鉄道と人や自然との関わりが魅力的な写真約30点が展示された。このように様々な視点から鉄道への理解を深める企画が行われた。

（入館者数 51,897 名）*長浜スクエアとしての入館者数

⑥琴引浜鳴き砂文化館の管理運営（京都府京丹後市）

日本や世界の鳴き砂の展示や世界各地からの漂着物などの常設展示のほか、地元地区と連携してエコツアー等を実施し、地域の魅力を発信した。企画展として「鳴き砂の父・三輪茂雄展」(10月22日～12月15日)や写真展「丹後の野生植物・花と実」(1月4日～2月11日)が開催されたほか、琴引浜自然教室(7月27日～29日)、市内の小学生の特別授業として大地の学習(9～10月)が開催され、地元の子供たちの学習の場として活用された。そのほか、“あなたが拾ったゴミが入場券”という恒例の環境啓発イベント「はだしのコンサート」は26回目となり、6月2日に開催された。参加者約500名は約100kgのマイクロプラスチックゴミなどを収集したほか、コンサートに参加でき好評であった。なお「はだしのコンサート」は、社会貢献活動による功績を顕彰する(公財)京都オムロン地域協力基金より、2019年度「京都ヒューマン賞」を授与された。地元小学校や高校と連携している点が、子どもたちの環境意識の育成に繋がっていると評価された。

（入館者数 9,520 名）

⑦北陸線電化記念館の管理運営（滋賀県長浜市）

D51形蒸気機関車とED70形1号交流電気機関車の内部を通年公開するとともに、交流電化の歴史資料等のパネルを展示した。鉄道の日である10月14日には展示車両2台の清掃ボランティアを実施し、約20名の親子が参加し好評を得た。

（入館者数 51,897名）*長浜スクエアとしての入館者

⑧村上歴史文化館の管理運営（新潟県村上市）

歴史を活かしたまちづくりの拠点としての役割を発揮し、今年度は市内遺跡のうち近世時代を中心とした出土品の展示「市内遺跡出土品展～近世の村上～」(12月7日～2月23日)や、恒例となった「城下町村上に伝わるひな人形展」(2月29日～4月5日)が開催された。

（入館者数 14,794名）

⑨四国鉄道文化館の管理運営（愛媛県西条市）

近年新たに建設された四国鉄道文化館南館と十河信二記念館、観光交流センターとともに形成される「鉄道歴史パーク in SAIJO」として、地域の賑わいの拠点となり、多くの人に利用された。11月23日～24日に「伊予西条鉄道フェスタ 2019」が開催され、盛況であった。そのほか、北館に展示されている0系新幹線の掃除体験・勉強会「0系ぷらす」が定期的に開催され、子供たちの学びの機会となった。また、JNT個人会員から所有されている鉄道資料の活用について相談を受け、当財団が仲介し、西条市への寄贈が実現した。さらに同会員から当財団に寄贈された320万円を活用し、鉄道資料展示用のガラスケース4台を購入するとともに、課題であった外壁及び建具の修復を実施した。同会員は、5月1日に西条市を訪問され、四国鉄道文化館において贈呈式が実施された。寄贈資料は、これまで2回開催された企画展で公開された。

（入館者数 51,761名）

3. 普及事業

(1) JNT設立50周年記念事業 記念式典・シンポジウム及び情報交換会開催

財団設立50周年を契機として、半世紀にわたる歩みを振り返るとともに、今後を展望するシンポジウムを開催した。テーマは、時代の変化やニーズに対応し、地域を主体とした活動への支援など日本の風土や文化に根ざした新たな日本型のナショナル・トラストを目指し、『私たちの大切な自然と文化を未来へ』とした。当日は、来賓に田端浩観光庁長官、村田善則文化庁次長を迎え、多くの皆さまに会場いただき盛会となった。

【日時】 2019年4月8日（月）14時00分～

【場所】 学士会館（東京都千代田区神田錦町3-28）

【内容】 主催者挨拶 JNT会長 梅崎 壽

報告「JNTのいま」

JNT50年の歩みと現状：JNT事務局長 根岸悦子

旧安田楠雄邸庭園：プロパティマネージャー 仰木ひろみ（たてもの応援団）

地域遺産支援プログラム：ワーキングメンバー 和田裕子

((株) マヌ都市建築研究所)

トラストトレイン：浅原 悟 (大井川鐵道(株)専務取締役)

パネルディスカッション「持続可能な観光のあり方とは～地域遺産の保護活用」

コーディネーター：鈴木伸治 (横浜市立大学教授)

パネリスト：矢ヶ崎紀子 (東京女子大学教授)

真野洋介 (東京工業大学准教授)

平岡成哲 (観光庁観光地域振興部長)

梅津章子 (文化庁文化資源活用課整備活用部門文化財調査官)

対談「私たちの自然と文化を未来へ～日本型ナショナル・トラストを考える」

西村幸夫 (神戸芸術工科大学教授・東京大学名誉教授)

宗田好史 (京都府立大学副学長・教授)

JNT 宣言 JNT 理事長 小山正宣

閉会の辞 JNT 副会長 川村恒明

情報交換会 挨拶 東日本旅客鐵道(株)相談役 大塚陸毅 (前・JNT 会長)

～歓談及び来賓・関係者のスピーチ～

閉会挨拶 JNT 関西支部長 木部義人

【後援】 観光庁・(公社)日本観光振興協会・(一社)日本旅行業協会

【参加者】 式典・シンポジウム 187 名、情報交換会 129 名

また、JNT50 周年事業の集大成として、記念冊子の作成を進めている。

(2) 会員事業

①見学会・催し物等の開催

(ア) トラストトレイン

- ・トラストトレイン運行日およびボランティア参加者数

4 月 13 日 (7 名)、6 月 1 日 (37 名)、7 月 6 日 (8 名)、8 月 24 日 (32 名)、9 月 28 日 (8 名) *8 月 24 日は親子ボランティア

- ・大掃除等ボランティア活動

12 月 8 日 (5 名)

(イ) 旧安田楠雄邸庭園

*2018 年 8 月 30 日から 2019 年 11 月 8 日まで耐震補強等工事のため休館

- ・主催イベント

1 月 8 日 人日の節句

1 月 8 日～2 月 26 日の公開日 昭和のレコードジャケット展

2 月 29 日～3 月 4 日、および 3 月 7 日、3 月 11 日、3 月 14 日 上巳の節句

3 月 29 日 花見と踊り (100 周年記念事業)

*新型コロナウイルスの影響を受け中止

- ・協カイベント

11 月 13 日、16 日 東京文化財ウィーク (工事報告会) 東京都教育委員会事務局

11月23日、30日、12月7日、3月18日、25日

・・・・東京いい庭キャンペーン（園路開放）

東京の日本庭園おもてなし協議会主催/東京都建設局事務局

12月19日・・・・文京ミュージックフェスタ（耐震補強工事のPR）

文の京ミュージアムネットワーク主催

（ウ）駒井家住宅

・主催イベント

3月29日～4月7日・・・・春の連続公開（2019年度）

4月3日・・・・駒井家住宅・旧三井下鴨別邸の共同見学会
（公益社団法人京都観光協会と共催）

9月8日・・・・秋の特別公開「北白川を代表する住宅建築の特別公開」

駒井家の隣に並ぶ喜多源逸邸・小林家と連携して見学会を開催

3月27日～29日・・・・春の連続公開（2020年度）

※新型コロナウイルスの影響を受け中止

②会員活動の支援

会員の自主的な活動に対して、様々な支援を行った。

（ア）地域活動

白川ボックス／ヘリテージセンター白川郷合掌文化館の開館・建物維持管理

5月18日・・・・雪囲いはずし

6月28日・・・・清掃、総会

7月29日・・・・清掃

8月1日～8月31日・・・・夏季開館

11月・・・・雪囲い

1月～2月・・・・雪降ろし

（イ）サークル活動

民家・町並みサークル／総会、見学会、講演会、サークルニュース発行等

4月26日・・・・総会

6月29日・・・・見学会「八王子の見学会」

9月29日・・・・見学会「大磯街歩き-別荘地の面影を残す街-」

1月25日・・・・見学会「川崎の近代化遺産を巡る」※中止

2月15～16日・・・・見学会「愛媛 西条市見学会」

③会員増加キャンペーンの実施

関連団体及び企業の協力により、入会申込書の配布や設置、ポスター掲出等を行い、入会促進に努めた。また、期間限定で以下のキャンペーン等を行った。

（ア）設立50周年入会金無料キャンペーン

4月1日から11月30日までに入会した方を対象として入会金無料及び会報のバックナンバー無料のキャンペーンを行い、積極的にPRした。

(イ) 初年度会費無料キャンペーン

12月1日から3月31日までに入会した方を対象として初年度会費及び入会金を無料にするキャンペーンを実施した。

(ウ) プラスワンキャンペーン

4月1日から5月31日まで会員の紹介者に対して入会金無料及び会報のバックナンバー無料のキャンペーンを行い、積極的にPRを行った。

(エ) 新規団体会員からの要望に応え、団体会員へのメリットとして、2020年度より会員証を交付する。

(3) 広報事業

①会報「日本ナショナルトラスト報」の発行・配布（隔月刊）

年間6回の発行で紙面の充実した会報作りを行っている。会員へ配布するとともに、事業協力者へも広く頒布し、ナショナル・トラスト活動の普及に努めた。

<体裁>B5 16頁 <発行部数>2,500部 <通巻>525号～530号

531号（5月1日発行） 特集「乗鞍山麓 五色ヶ原の森～新ルートオープン～」

532号（7月1日発行） 特集「JNT 設立 50 周年記念式典 シンポジウム」

533号（9月1日発行） 特集「CSR 特集 企業から見た社会貢献活動」

534号（11月1日発行） 特集「駒井家住宅 その魅力と未来」

535号（1月1日発行） 特集「旧安田楠雄邸庭園 耐震補強等工事落成

～さらなる活用への一歩～

536号（3月1日発行） 特集「JNT 保護対象『法輪寺』を訪ねて

～幻の塔再建から 45 年～

*新しい取り組みとして、裏表紙に広告を掲載した。

「国際博物館会議 京都大会 ICOM KYOTO 2019」及び「奈良ホテル」

②メールマガジンなどの普及宣伝ツールの充実

月2回程度メールマガジンを配信し、会員および事業協力者へのタイムリーな情報発信を図るほか、ナショナル・トラスト活動の普及に努めた。（登録者数 約480名）

③広報宣伝活動の強化

(ア)「学生観光論文コンテスト」の実施

一般財団法人日本ホテル教育センターとの共催により、下記の通り第9回学生観光論文コンテストを実施した。1月16日に審査委員会が行われ、121編の応募の中から厳正なる審査の結果、下記の通り決定した。また、2月18日に第48回国際ホテル・レストラン・ショー（幕張メッセ）会場内にて表彰式が執り行われ、立教大学観光学部3年岩坪龍彦他に対し「(公財)日本ナショナルトラスト会長賞」を授与した。

目的：将来の観光産業のリーダーとなる若者の育成を通じて、日本政府ならびに観光庁の観光政策をサポートすることにより日本を明るく元気にする一助とする

論文テーマ：下記三つのテーマの中から一つを選択 *未発表のものに限る

A) 世界が訪れたいくなる観光立国ニッポンを目指して、私の提案

B) 自然や文化を活かした魅力ある地域づくり

～ナショナル・トラスト活動でできること、私の提案

C) 我が国の MICE(マイス)競争力強化に向けて、私の提案

賞：最優秀賞 1 編には賞金 50 万円、優秀賞 2 編には賞金各 25 万円を贈呈

募集期間：10 月 1 日（火）～11 月 27 日（水）

応募資格：日本国内の大学・短大・専門学校に在籍する学生 *但し大学院生は対象外

結果：最優秀賞【観光庁長官賞】

香川大学 経済学部 観光・地域振興コース 西成ゼミ 3 年 大森皓太ほか

テーマ A 「自然資源と文化資源を融合させた国立公園の利活用

～屋島山上ちようちんカフェという社会実験を通じて～

優秀賞【公益財団法人日本ナショナルトラスト会長賞】

立教大学 観光学部 3 年 岩坪龍彦ほか

テーマ B 「アルベルゴ・ディフーズの実態と日本への応用可能性」

優秀賞【一般社団法人日本シティホテル連盟会長賞】

立教大学 観光学部 3 年 武藤達郎ほか

テーマ C 「日本における MICE の高度人材育成

～MICE 誘致により宿泊産業を豊かにする～

(イ) 「メトロファミリーパーク in AYASE」に参加

11 月 17 日、東京メトロおよび公益財団法人メトロ文化財団のご協力で綾瀬車両基地で行われた車両基地イベント「メトロファミリーパーク in AYASE」に参画し、JNT やトラストトレインの PR 活動を行った。

(ウ) 関係団体の広報協力

旧安田楠雄邸庭園については、東京メトロで駅の「地域ポケット利用」等の広報協力をいただいている。また旧安田邸が MetroWalker 春号の表紙を飾り、『『おもてなしの心』を巡る東京散歩』で特集を組んでいただいた。トラストトレインについては、地下鉄博物館(東京都江戸川区)に JNT とトラストトレインのパンフレットおよび維持修復を呼び掛ける募金箱を設置していただいている。駒井家住宅及び旧大乘院庭園については、JR 西日本や叡山電鉄から継続的に広報協力を得ており、保護資産及びプロジェクトを通じ、広く当財団の紹介を行っていただいた。JR 東海と JR 西日本のご協力により新幹線搭載誌「ひととき」に定期的に当財団の PR ページを提供いただき、大きな効果があった。さらに公益社団法人日本観光振興協会をはじめとする観光関係団体のメールマガジンや HP でも、JNT のイベント情報を発信するなどの広報協力をいただいた。

(4) その他普及事業

①地域遺産支援プログラムの実施

地域遺産を支援するための事業のコンセプト等を検討するワーキングを立ち上げ、外部からの協力を得て、様々な検討を行っている。本年度は、モデル事業として白川村のほか山梨県甲州市上条集落でも事業を実施した。

(ア) 岐阜県白川村

白川村と協働で茅刈りを行う「われらが紡ぐ白川郷かややねプロジェクト～秋の一斉茅刈り～」を2015年度から実施しており、茅の自給率向上を目指している。茅刈りイベントの実施に当たっては、白川村に関心のある東京の若手で企画会議「かややね会議」を開催し、企画内容を検討している。10月6日はかややね会義の特別企画として、筑波大学の宮原克人准教授を招き「白川郷の茅でほうきをつくろうイベント」を開催した(24名が参加)。また、2月2日に白川村と共催し、イベント「“すったて”で乾杯!～東京だから出会える白川郷～」を開催した。イベント企画をJNTが行い、白川村役場の職員を招いたゲストトーク、屋根の骨組みを結束する白川村の伝統的な方法である「ハコ巻き」体験、郷土料理である「すったて」の振舞いなどが好評であった(参加者22名)。

11月9日の茅刈りには、一般および村内から82名の参加があり、約900束の茅を刈り取った。また茅刈りの翌日は、合掌造り民家の屋根組み体験および白川郷ツアーを開催した。当日茅刈りに参加した三井住友信託銀行富山支店が12月2～30日の期間、茅刈りの写真展を開催した。茅刈りの活動にも広がりが出ている。

(イ) 新たなモデルとして、過去に観光資源保護調査を実施した山梨県甲州市上条集落で協働事業を行っている。上条を活性化する会の定例会に参加し、会議のファシリテーターやデータ活用など事務局支援を行うとともに、7月15日と11月17日に開催された収穫祭の当日運営サポートなどを行い、地域と共に活性化に取り組んでいる。

②会員サービスの拡充

会員に対し、優待施設を提供するなど会員サービスの充実に取り組んでいる。

③各種シンポジウムなどイベントの開催

各保護資産およびヘリテイジセンターにおいて前述の通りのイベントを開催した。

④他団体主催イベント等への後援

- ・第7回セミナー 江戸城本丸御殿のインテリア(意匠)
主催：一般財団法人江戸・東京歴史文化ルネッサンスの会
後援名義期間：2019年7月5日～8月10日
- ・第68回日本観光ポスターコンクール
主催：公益社団法人日本観光振興協会
後援名義期間：2019年9月26日～当該事業終了の日
- ・第42回全国町並みゼミ川越大会
主催：特定非営利活動法人全国町並み保存連盟
後援名義期間：2019年11月7日～2020年2月2日
- ・名勝大乘院庭園文化館 文化サロン
主催：名勝大乘院庭園文化館
後援名義期間：2019年3月4日～5月10日

⑤情報発信

ウェブサイト等を積極的に活用し、会員や JNT に関心のある層への情報発信に努めた。ウェブサイトは随時修正を行い、フェイスブックも最低 1 週間に一度は更新するようにしている。会員の皆さまと双方向でつながることができ好評を得ており、現在、約 500 人がフォローしている。また、毎日新聞社に当財団の活動に関する情報を提供し、毎日フォーラム 12 月号の地域遺産特集に JNT の取り組みが大きく紹介された。

⑥その他

6 月 16 日に茨城県常陸大宮市文化センターで開催された文化財庭園保存技術者協議会（庭技協）主催の「第 16 回文化財庭園フォーラム」に職員が出席し、「旧安田楠雄邸庭園取り組みについて」の事例発表を行うとともに、パネルディスカッション「地域との調和が育む文化財保存活用地域計画庭園」でパネラーを務めた。

4. ネットワーク事業

(1) 「全国鳴砂ネットワーク」への参加

「2019 全国鳴砂サミット in 気仙沼」が開催され、総会及び交流会に理事長及び職員が出席し、運営に協力した。

<会期> 10 月 6 日

<会場> 宮城県気仙沼市

(2) 「(一社) 日本茅葺き文化協会」への参加

国際茅葺き会議 2019 日本大会（5 月 17 日～23 日、国際茅葺き協会主催）と合同で開催され、職員が総会等に出席した。

<会期> 5 月 18 日～19 日

<会場> 岐阜県大野郡白川村

(3) 「湘南邸宅文化ネットワーク協議会」への参加

会員として参画し、協力を継続した。

(4) 「ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク」への参加

東京都で開催された総会及び交流会に職員が出席した。

<会期> 6 月 15 日

<会場> 東京都

(5) 全国近代化遺産活用連絡協議会

鳥取県鳥取市で開催された総会及び交流会に出席した。

<会期> 7 月 24～26 日

<会場> 鳥取県鳥取市

5. 団体交流事業

文化財や自然環境の保護・保全を目的とする各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を行った。また、国内の諸団体や海外のナショナル・トラストをはじめとする環境保全団体等と交流を行い、情報収集に努めた。

(1) 国内交流事業

①国内保護団体との連絡連携及び情報の交換

(ア) 文化財指定庭園保護協議会

愛知県名古屋市で開催された総会及びシンポジウムに職員が出席し、情報交換と交流に努めた。

<会期>5月30日～31日

<会場>愛知県名古屋市

(イ) 歴史的景観都市協議会

滋賀県長浜市で開催された総会及びシンポジウムに職員が出席し、情報交換と交流に努めた。

<会期>10月24日～25日

<会場>滋賀県長浜市

(ウ) 全国町並みゼミ

埼玉県川越市で開催された大会に職員が出席し、情報交換と交流に努めた。

<会期>1月31日～2月2日

<会場>埼玉県川越市

(エ) 全国伝統的建造物群保存地区協議会

秋田県横手市で開催された総会及びシンポジウムに職員が出席した。

<会期>5月22日～23日

<会場>秋田県横手市

②文化遺産信託研究会の設立に協力

駒井家住宅と相互入場協定を締結している認定特定非営利活動法人 アメニティ 2000 協会が設立準備委員会代表となり、日本におけるナショナル・トラスト活動をさらに推進するため、新たに文化遺産信託研究会が発足した。当団体から JNT に対して入会および活動への協力のほか発起人に就いて欲しいとの協力依頼があり、これを受け入れた。

③登録を行っている諸団体

(公社)京都市観光協会、(公社)国際観光施設協会、(公社)日本観光振興協会、(一社)日本茅葺き文化協会、(公財)日本交通公社、特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会、一水会(観光関係団体懇談会)、京都市内博物館施設連絡協議会、文化財保存全国協議会、文化財指定庭園保護協議会、産業考古学会、鉄道友の会、日本鉄道保存協会、文

化遺産信託研究会、全国近代化遺産活用連絡協議会、湘南邸宅文化ネットワーク協議会、ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク

(2) 国際交流事業

①海外保護団体との連絡連携及び情報の交換等、国際交流の推進

本年度も歴史遺産・自然環境の保護・保全を目的とするナショナル・トラスト活動を行う世界各国の各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を努めた。

②交流を図っている団体

英国ナショナル・トラスト（名誉会員）

米国ナショナル・トラスト（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

オーストラリア・ナショナル・トラスト（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

ニュージーランド・ナショナルトラスト

（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

クイーンエリザベスⅡ世ナショナル・トラスト

（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

ジョージア州ナショナル・トラスト（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

フィジー・ナショナル・トラスト（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

バミューダ・ナショナル・トラスト（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

6. その他

(1) 新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止に向けた対応

2月16日付で「新型コロナウイルス（COVID-19）の感染防止のための行動指針」を定め、感染拡大防止に努めた。

IV 登記事項、届出・報告・申請事項

1. 登記事項

2019年7月17日

- ・ 小山正宣理事・日野正夫理事の退任、大庭靖雄理事・阪本未来子理事の就任（2019年6月25日付）

2. 届出・報告・申請事項

2019年6月27日

- ・ 事業報告等の提出（内閣府）

2019年7月29日

- ・ 理事変更届出（内閣府）

2020年3月31日

- ・ 事業計画書等の提出（内閣府）

参考

東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクト助成金交付一覧表

(単位：円)

《第五次支援対象》

所在地		対象遺産名	交付額	事業概要
宮城県	気仙沼市	千田家住宅	1,500,000	基礎補強及び外壁補修等
合計			1,500,000	

参考

アドバイザー名簿 (2020年3月31日現在)

アドバイザー 大塚 陸毅 東日本旅客鉄道(株)相談役

以上1名

顧問名簿 (2020年3月31日現在)

顧問	石原 進	九州旅客鉄道(株)相談役
顧問	石渡 恒夫	京浜急行電鉄(株)取締役会長
顧問	泉 雅文	四国旅客鉄道(株)取締役会長
顧問	大須賀 頼彦	小田急電鉄(株)特別社友
顧問	大橋 洋治	ANAホールディングス(株)相談役
顧問	尾関 宗園	大徳寺大仙院閑栖
顧問	門脇 邦彦	日本空港ビルデング(株)名誉会長
顧問	小山 薫堂	放送作家
顧問	小山 正宣	前・(公財)日本ナショナルトラスト理事長
顧問	白川 保友	北海道旅客鉄道(株)代表取締役会長
顧問	須田 寛	東海旅客鉄道(株)相談役
顧問	富田 哲郎	東日本旅客鉄道(株)取締役会長
顧問	夏目 誠	成田国際空港(株)相談役
顧問	根津 嘉澄	東武鉄道(株)取締役社長
顧問	伏見 勝	元・報知新聞社最高顧問
顧問	MARI CHRISTINE	異文化コミュニケーター
顧問	宮田 亮平	文化庁長官
顧問	村田 光平	元・駐スイス大使
顧問	山村 明義	東京地下鉄(株)代表取締役社長
顧問	山本 亜土	名古屋鉄道(株)代表取締役会長

以上20名

観光資源専門委員名簿 (2020年3月31日現在)

観光資源専門委員	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授
観光資源専門委員	井手 久登	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	大塚 初重	明治大学名誉教授
観光資源専門委員	河東 義之	小山工業高等専門学校名誉教授
観光資源専門委員	西村 幸夫	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	三隅 治雄	東京文化財研究所名誉研究員
観光資源専門委員	三村 浩史	京都大学名誉教授
観光資源専門委員	宮脇 昭	横浜国立大学名誉教授

以上8名